

MI治療をアシストする 隣接面の形態修正に有用な メタルストリップス



東京都台東区
大谷歯科クリニック
院長 大谷 一紀

研磨ストリップスにはさまざまな種類がありますが、ダイヤモンドがコーティングされたメタルストリップス「グリップストリップ」は、多くの点で新たな特長を備えた製品です。特筆すべきは、これまで難しいとされてきた隣接面や歯肉縁下におけるコンポジットレジンの余剰材除去、形態修正にとっても有用な器材だということです。

隣接面などの研磨に対してメタルストリップスを使うと、コンタクトや歯肉を傷つけるのではないかと心配される先生もいらっしゃるかもしれません。しかし、グリップストリップの厚みは0.05mmと薄く、すべりもとても滑らかです。意外に思われるかもしれませんが、製品によってはプラスチックストリップスのほうが厚い場合があるんです。そして、グリップストリップの中央部にはフリーミドルゾーンと呼ばれるダイヤモンドがコーティングされていない部分があり、ここから歯間部へと挿入することにより、コンタクトを傷つけずスムーズに研磨が行えるようになっています。幅も2.5mmと適度で、

余計な箇所を削ることなくピンポイントでの作業が可能です。

このフリーミドルゾーンを境にして、セクションが2つに分かれているのも特長の1つ。研磨を目的とした粒度の粗い40 μ mのエリアと、仕上げを目的とした粒度の細かい15 μ mのエリアがあり、私はこの1本でバリ取り、形態修正、そして、粗い研磨くらいまでを行っています。磨くだけではなく、細かい修正に対応できるのもグリップストリップの魅力です。

また、ハンドル部が楕円形に大きく広がっていて、パンチング加工された穴が滑り止めとなり、指先だけでしっかりと掴むことが可能です。濡れたグローブで掴んでも滑りづらいので、治療の際に患者さんの唇などを傷つける心配も少なく大いに助かっています。

さらに、全長が80mmと短めなため、口腔内での操作が容易で、前歯はもちろん、小白歯くらいまでであれば比較的楽にストリッピングが行えます。

ここまで述べてきたことは形状的な特長からくる利点です



図1 冷水痛のある65]部にX線にて象牙質に達するう蝕を認めた。



図2 う蝕除去後。



図3 最初に窩洞の小さな6]の近心CRの充填を行う。グリップストリップを用いて隣接面の形態修整を行う。



図4 6]形態修整終了時。グリップストリップの使用により適切な隣接面形態の付与が容易にできる。



図5 5]にコンポジット3Dシステムを適合させCR充填を行う。



図6 充填ミスが起こりやすい臼歯部隣接面でも、適切な充填補助器具の使用で精度の高い充填が可能になる。

が、グリップストリップならではの弾性もまた気に入っています。

言葉では表現しづらいのですが、柔らかすぎず、硬すぎもせず、しなやかさとコシがあるんです。そのため、歯の湾曲に沿った研磨が可能で、かなりの角度で曲げても元のまっすぐな状態に戻ります。このコシと強度は操作時の自由度を格段に高めていると感じています。それに加えて薄いため、歯肉縁下においても大きな傷をつくることはありません。

また、オートクレーブ滅菌に対応し、研磨能力を維持しながら繰り返し使用できるのでコストパフォーマンスも高いと言えるのではないのでしょうか。

ところで、今までコンポジットレジン充填は隣接面や回転器具の届かない場所には不向きとされてきました。しかし、ここ数年、補助器具が充実してきたことにより、適応範囲が非常に広がってきています。当院でもⅡ級窩洞にはマトリックスとして「コンポジット3Dシステム」を使用し、充填を行い、グリップストリップなどで形態修正を行うといった処置を採用しています。前歯部のⅢ・Ⅳ級窩洞では、自然な豊



隆が付与しやすいマトリックス「ヴァリストリップ」を用いています。確かにひと手間ではあるのですが、こうした器具や器材を使いこなすことで、結果的に少ない治療回数、平滑な仕上がり、そしてMI治療の実現に成功しています。

よりきれいに、より早く治療することは歯科医師のみならず、患者さんの望みであることは言うまでもありません。即日修復が可能なコンポジットレジン充填を行うのであれば、グリップストリップは取り揃えておくべき器材の1つなのではないのでしょうか。



図7 前歯部隣接面部に二次う蝕を認めた。



図8 既存のCRおよびう蝕除去終了時。



図9 適切な湾曲を付与するために、ヴァリストリップを使用する。



図10 バーやディスクのような回転器具が届かない部位の形態修整には、グリップストリップが有用である。



図11 術後。ヴァリストリップとグリップストリップの使用により、適切な隣接面形態を短時間で付与することができる。

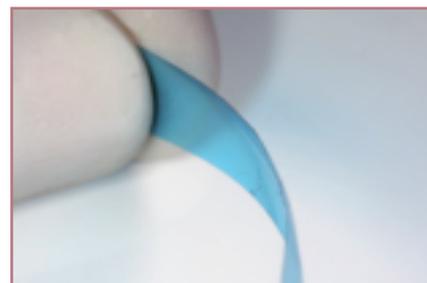


図12 ヴァリストリップは予め湾曲が付与されている。十分な長さがあり、症例によって長さを調節して使用すると使いやすい。